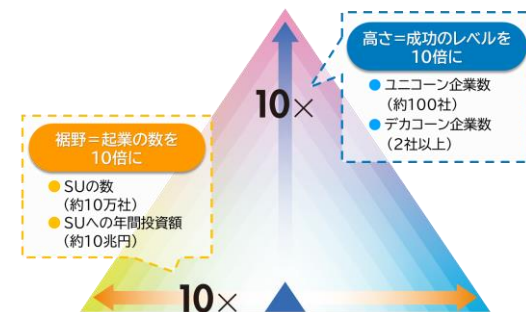


グローバルスタートアップキャンパス構想(GSC)について

スタートアップは社会課題の解決やイノベーションを生む仕組みとして最も優れたスキームの一つ。
2027年までにスタートアップの数・レベルともに10倍とする10X10Xの実現に向けて様々な施策が導入されるなか、残された重要課題の一つは研究から知財化・事業化に至る「Science to Startup」のpathの確立。

2024年1月22日
(一社)日本経済団体連合会



GSCが目指すべき姿

- 国内の特定大学に縛られず優秀な人材を集中し、**自律的なオフキャンパス構想**を具現化すること。
- 大学・研究機関を核としたスタートアップエコシステムの形成、「Science to Startup」の構築を**最大目標**に据えること。
- 既存特許の活用を超えて、**最初から社会実装・Exitまで見据えた研究・知財化を集中的・戦略的に支援**するスキームを確立し、研究開発型スタートアップを次々生み出すロールモデルとなること。

注力すべき課題

制度整備

- ✓ 既存の制度・慣習に囚われない柔軟な運営の容認 (プロジェクトマネージャー等への一定の裁量付与、海外大学・VCにとって活動しやすい環境の整備等)
- ✓ 透明性の高い予算執行

人材確保

- ✓ 研究者と経営人材を効果的にマッチングする機能構築
- ✓ 海外展開を見据えた強力な支援チームの確保 (IP人材、メンター、ビジネスデベロップメント等)
- ✓ 研究成果の海外マーケットに対する発信

資金調達

- ✓ 各種ディープテック支援基金等の優先的活用等の連携
- ✓ 研究初期段階からの国内外ディープテック系VCとの定期的な対話
- ✓ 大企業・CVCの円滑な参入に向けた制度の設計・明確化 (役割・知財・研究テーマ等)